



菊川断層を震源とした地震を想定した
「下関市・長門市合同防災訓練」(1月17日)

市民と市長を結ぶコラム 市長室から

こんにちは

市ホームページ「市長の部屋」へどうぞ。 <http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

自然災害に強いまちづくり

〜東日本大震災から2年〜

こんにちは。市長の中尾友昭です。平成23年3月に発生した東日本大震災から2年が経過します。

そのような中、太平洋沖合で発生が懸念されている南海トラフの巨大地震について、国の検討委員会での結果が公表され、下関市は、以前の震度4から、1ランク上の震度5弱の想定となりました。

本市では、市内に存在する菊川断層に起因する地震の震度を7と想定し、地域防災計画を策定しています。予防対策や耐震化対策、発災後の迅速な初動体制や救援対応などにより市民の皆さんの安心と安全を確保します。

●津波・高潮対策

本市では、高潮対策として、県高潮対策検討委員会が想定した高潮の高さを基に、壇之浦から長府、王喜方面の防波堤のかさ上げを行っています。想定される高潮の高さが津波より高いので、ハード対策の柱として事業を継続していきます。

南海トラフによる地震の津波が下関市の沿岸に到着するまで約3時間と想定され、時間的余裕があります。この時間を有効に使い、沿岸の住民や臨海地域に対して、津波被害の少ない高台などへ避難

するよう広報や誘導ができると考えています。

●防災情報システム

災害発生時などに必要な防災情報を、市民の皆さんに迅速に知らせるため、防災行政無線の屋外拡声器の各地への配置を進めています。また、携帯電話やパソコンへ直接情報を送信する防災メールやエリアメールも活用しています。

利用に当たっては、市ホームページから登録をお願いします。さらに、各指定避難所に表示看板を設置します。日ごろから地域の避難所の位置や安全な避難経路などを確認しておきましょう。

●地域防災力の強化

災害の発生時には、自分や家族の命を守ることが最優先ですが、隣近所や地域内で互いに助け合い、協力して被害を軽減することが有効です。

大規模災害では、救助機関が被災現場にすぐ到着できない状況も考えられます。被災地域の住民同士で助け合う「共助」の精神が必要不可欠です。そのために、自主防災組織率100%に向けた取り組みなど地域防災力をさらに強化していきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

しものせきナビ vol.32

年表を歩く

本州最西端の地
毘沙ノ鼻
(1991年)



下関市は、本州最西端に位置する市です。その中で最も西の端に当たるのが、吉母海岸にある毘沙ノ鼻。国道191号を永田郷から案内に沿って西へ車で15分ほどの海岸沿いにあります。東経130度51分45秒、北緯34度6分27秒のこの地には、1991(平成3)年に「本州最西端の地」の碑が波際の岩場に建てられました(現在は立入禁止)。現在は、近くの丘の上に展望台と新たな碑が設けられており、響灘の雄大な景色や沖に浮かぶ蓋井島を望むことができます。



歌碑



展望台。左の島影は蓋井島

展望台には、万葉集の歌が記された歌碑もあります。「長門なる奥津借島奥まへて我が思ふ君は千歳にもがも」。738(天平十)年に詠まれたもので、奥津借島(蓋井島)の名前のように、強く思っているあなたの長生きを願うという気持ちが込められた句です。

本州最西端の地からの絶景は、皆さんの目にはどんな思いとともに映るのでしょうか。

●下関市年表 販売中！
販売価格 3,000円
問広報広聴課(☎231-29051)